

愛犬用クッキー好評

前年同期比 売りが倍増

世田谷・障害者施設

厳しい品質モットー

世田谷区の障害者施設「泉の家」が作るクッキーが評判だ。ただし、クッキーといっても食べるのは愛犬。都内の障害者施設で犬用のクッキーを作っているのはここだけという。多くの人に関心を持ってもらおうと、春にクッキーを犬の形などに変えたところ、売りが前年同期比で約2倍に伸びた。保坂俊晴施設長(58)は「品質を厳しく保ち、施設利用者が主体となって作っている」と話す。

【谷本仁美】

チーズ味、パンプキン味、さつまいも味と、アレルギー対応のビーフレバー味の4種類があり、1袋(20g)150〜200円で施設などで販売している。人が食べるクッキーと同じ食材を使い、添加物や油分、砂糖を加えない健康志向。つなぎがないので歯ごたえがあり、少量でも満足感が

あるため減量中の愛犬にも良さそう。一口食べてみた。表面がパリッとしたクラッカーのようで、かむほどに素朴な甘みを感じる。犬用のクッキーを作る

り始めたのは2010年の施設改築がきっかけという。「地域に開かれた施設を目指し、1階にカフェを設けた際、閑静な住宅街にあることから、愛犬を連

れた人にも利用してもらおうと考えた。そこで「他の施設にはない、自分たちの商品を作ろう」と犬用のクッキー作りに着手した。

「泉の家」でボランティア活動をやる地域の主婦たちも、その取り組みを支えた。クッキーが完成すると、ふだん利用しているトリミングサロンや動物病院へ持ち込み、宣伝してくれたという。

医師のアドバイスもあり、ビーフレバー味は細長く成形して、表面に切り込みを入れてちぎりやすくした。今では一番の人気商品だ。

また、クッキー作りに携わる施設利用者の特性は一人一人異なるため、作業が効率良く進むよう、利用者自ら補助具になりそうな物を探したり、商品改良

ゆず果汁 かぼす 柚子茶 調味液 (0088) 21-1155
柑橘の酸アスキー

獣医師がアドバイス

クッキー作りでは獣医師のアドバイスもあった。同じ種類のドッグフードを食べ続けることでアレルギーを持つ犬が増えていると知らされ、小麦やとうもろこし、鶏肉など8種類のアレルゲンを使わないクッキーを求められた。

しかし、限られた材料でのクッキー作りは難しい。煮干しや高野豆腐などを試すと、犬にそっぽを向かれたという。支援課長補佐の石黒玲奈さん(36)は「10回くらい失敗して、心が折れそうだった」と振り返る。

お菓子作りの得意な施設利用者がクッキーを一つ一つ手作りしている。世田谷区の「泉の家」で

支援員の奥田昌規さん(29)は「クッキーは施設利用者の努力とアイデアの結果」と話し、クッキー作りに約4年間参加している山田孝さん(72)も「きれいに型が抜ける時が面白い。お客さんに喜んでもらえたらうれしい」と笑顔で話した。

施設のカフェで販売しているほか、動物病院や犬のしつけ教室などに納品している。手作りのため大量生産は難しいが、保坂施設長

は「地域のボランティアの方の協力があっての商品。販路を拡大したい」と意欲をみせている。問い合わせは泉の家(03・3417・3451)。



クッキーに飛びつく愛犬。泉の家 提供



施設利用者がクッキーを一つ一つ手作りしている。世田谷区の「泉の家」で

第50852号 【明治5年創刊】明治25年3月8日 第3種郵便物認可 ©毎日新聞社2017(日刊)



新毎日

6月15日(木)

2017年(平成29年)

発行所：東京都千代田区一ツ橋1-1-1
〒100-8051 電話(03)3212-0321
毎日新聞東京本社